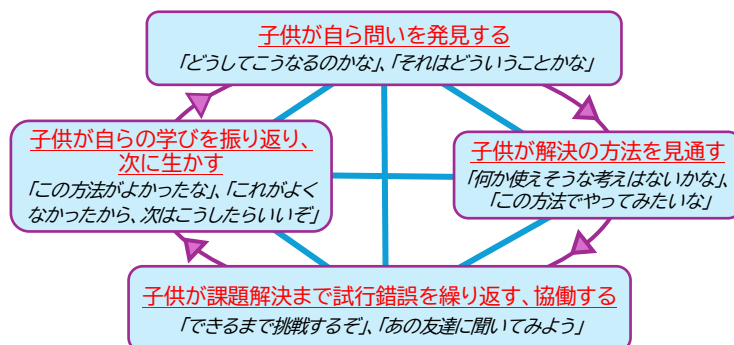


北薩の授業づくり3ポイント

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「学習者主体の授業」づくり～

「学習者主体の授業」では、子供自身が右図のような活動に取り組み、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けていきます。

そのためには、授業者が、事前に単元・題材全体の構想を十分に練り、単元・題材及び一単位時間において、適切な働き掛けを行うことが大切です。



単元・題材全体の構想

- 1 年間指導計画を基に、単元の指導事項を確認
- 2 該当する学習指導要領（解説）で具体的な内容や系統性を確認
（※ 本単元・題材で働かせる「見方・考え方」を明確にする）
- 3 教材研究（教材について、子供の実態について）
- 4 単元の目標、評価規準を設定
- 5 単元の「指導と評価の計画」を作成

単元・題材全体及び一単位時間における目指す子供の姿

子供の姿 視点
[] 授業者の働き掛け

目標の明確化

- 自ら問いをもつ
- 自らの言葉で「めあて」を立てる
- 解決の見通しをもつ
〔働かせる「見方・考え方」に気付かせる〕

振り返りの充実

- 自らの言葉で「まとめ」を行う
〔「めあて」との整合性を考えさせる〕
- 理解・習熟を確かめる
〔繰り返しの学習で定着させる〕
- 学んだ内容や学び方を振り返る

子供が選ぶ・決める・関わり合う学び

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

- 自らの学び方を選択・決定する
 - 道具・活動
 - 学習形態・スタイル
 - 学習時間・ペース
 - 解決方法・考え方
 - 課題・めあて
- 自らの考えをもつ
- 多様で多くの情報を収集・整理・分析する
- 様々な視点や考え方を基に意見交換を行う
〔働かせた「見方・考え方」に気付かせる〕
- 学習場面に応じてICTを活用する
 - 情報の収集・整理 思考の可視化 他者参照 相互評価
 - 習熟・定着〔MEXCBTやAIDドリル等の問題で習熟状況を確認させる〕